

新型コロナウイルス感染症のリスクを踏まえて、災害時の備えをしましょう

新型コロナウイルス感染症について予断を許さない状況が続いています。感染症への対策を進めつつ、昨今、頻発する豪雨等による複合災害にも警戒が必要です。是非ご一読頂き、複合災害の発生に備えてください。

分散避難の検討

災害時に避難所に行くことだけが避難ではありません。住宅避難やホテル、親戚や知人宅への避難も選択肢です。新型コロナウイルスの感染リスクがある状況では、「3密」を避けるためにも分散避難は有効です。



ハザードマップ、防災マップの確認

ハザードマップ、防災マップ等を使用して、自宅や避難場所の危険の有無、程度を事前に確認しておきましょう。川に近い場所、低い場所、急な斜面等は図示されていなくても危険な場所がありますので注意しましょう。



避難所へいく場合は、感染予防対策を実施する



新型コロナウイルス感染症予防のため、体温計、マスク、消毒液を持参できると良いでしょう。ない場合は、鼻と口を覆える大きさのタオルや手ぬぐい、ウェットティッシュを使う等工夫しましょう。人との距離を保つことも必要です。また、発熱やせき、強いだるさといった症状が出ていないかチェックするとともに、定期的に体温をはかることで自身に感染の疑いがないかどうかを確認しましょう。

「警戒レベル」の正しい意味を知る

風水害、土砂災害の危険が迫った時、危険度に応じた「警戒レベル」が発表されます。避難に時間を要する人や危険な場所にいる人は「警戒レベル 3：避難準備、高齢者等避難開始」の段階で避難を開始しましょう。「警戒レベル 4：避難勧告」は発令された地区の住民が避難を開始する段階、「警戒レベル 4：避難指示（緊急）」は全員が直ちに避難をする段階です。避難が困難な場合は、屋内で安全を確保し、命を守る行動をとってください。「警戒レベル 5」は既に災害が発生していることを意味します。